



みんなでつくる情報板 わかやまイベントボード

●ミズベリング 京橋で乾杯
全国の「水辺」で七夕の午後7時7分の7並びの時間に一斉に乾杯をします。和歌山では京橋で。
日時 7月7日(火) 19:07 16:00～21:00
場所 京橋プロムナード
持ち物 飲み物(アルコール・ノンアルコールどちらでも可)
主催 ミズベリング和歌山
備考 詳細は Facebook で「ミズベリング和歌山」で検索して下さい。

●ボポロハスマーケット
毎月第2日曜恒例のボポロハスマーケット。7月のテーマは「南の島」。
日時 7月12日(日) 11:00～16:00
場所 フラクリンアーケード内
内容 手づくり雑貨や安心安全の有機野菜、素材にこだわったフードやドリンクなどの出店、沖縄エイサーや三味線やウクレレにフラダンスなど
問い合わせ ボポロハスマーケット実行委員会 (popolohas@gmail.com)
備考 店舗などの情報は Facebook ページ (https://www.facebook.com/popolohas/) で。

このほかの情報もたくさん掲載！
「わかやまイベントボード」URL
PC版 http://eventboard.shiminjuku.jp/
携帯電話版 http://eventboard.shiminjuku.jp/m/

「イベント」×「食」= ??? ～シェアキッチン PLUG～

フォルテワジマそば、かつて問屋街として栄えた和歌山市万町にあるビルの一室に、新しいリノベーションプロジェクトとして、キッチンをつなげたイベントスペース兼カフェ「PLUG」が2014年9月にオープンしました。PLUGという店名は、人と人との「つながり」を創る場になってほしいとの思いを込めて名づけられたそうで、なにかチャレンジしたいことがある人や、知識を増やしたり、仲間づくりをしたい人が夜ごと集まっています。



店内の様子



読書会

PLUGでは、木・金・土曜の11時半～16時限定でカフェの営業もしています。PLUG

お堅い勉強会もソフトに開催
PLUGでは勉強会などのちよつと「お堅い」会を、ごはん付きにして少し「ゆるく」開催しているのも特徴です。

PLUGとは
PLUGはキッチン付きのイベントスペース。2時間6000円から、さまざまな用途で使うことができます。食材を持ちこんで料理しながらホームパーティー、大画面スクリーンを使ってトークイベントやゲーム大会なども。木・金・土曜の昼間はカフェ利用もできます。

出たこと。いま和歌山市「リノベーションスクール@わかやま」事業など、中心部の空き店舗を再生させる取り組みが盛んです。PLUGも空き店舗を「リノベ」してきています。



広いキッチンをつル活用



ファシリテーション勉強会



年末には餅つきも

PLUG
和歌山市万町4 ニューリチャードビル1階
http://plug-kitchen.com/
https://www.facebook.com/plug.kitchen
最新情報はウェブ・Facebookで配信中
カフェ営業 木・金・土曜 11:30～16:00
イベント・レンタル(イベントにより変更する場合あり)
火・水・日曜 10:00～23:00 木・金・土曜 17:00～23:00

NPO 紙上講座 (12) NPO を取り巻く環境⑤

今年の4月に介護保険制度が大きく変わったのはご存じでしょうか。いわゆる「団塊の世代」が75歳以上になり、全国の高齢化率が30%を超え、かつ介護保険料を負担する40歳以上の人口が減少に転ずることが見込まれる2025年を見据え、「地域包括ケアシステム」の考え方が導入され始めています。今後医療制度改革も予定されており、介護や医療といった高齢者福祉のあり方が抜本的に見直される見込みです。

「地域包括ケアシステム」を厚生労働省は「医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制」と位置づけています。住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができることを目指しています。

介護保険法改正により、全国一律に介護保険制度を用いて実施されている「介護予防」の枠組みが、2018年3月までに市町村が実施する「地域支援事業」に移行されます。そして市町村が様々な組織と連携をとりながら、地域の実情に応じた生活支援・介護

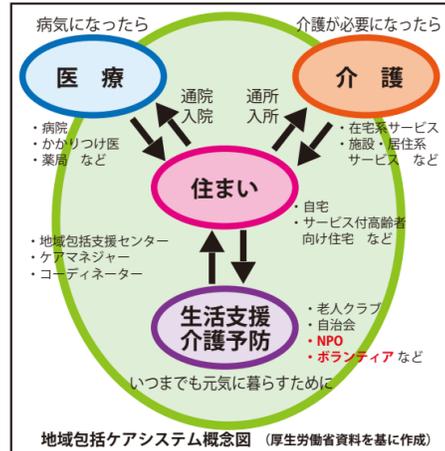
予防事業を実施することになります。この生活支援・介護予防サービス事業の担い手として、NPO・ボランティア団体、住民組織、民間企業など多種多様なものが想定されています。

この生活支援・介護予防事業は介護保険制度の枠組みからは外れますので、これまでのような一律の基準による給付があるわけではありません。ややもすると画一的なサービスしかできなかった部分が改善されることが期待される一方、これまで提供していた介護予防事業から撤退する事業者が出るという懸念もあります。

担い手として NPO・ボランティア団体、住民組織などがクローズアップされているのは、無償あるいは実費程度の負担を求めるボランティアをはじめ、地域住民相互の助け合い「互助」によってお年寄りの暮らしを支えるという思惑があるものと思われます。実際に「地域包括ケアシステム」の考え方には、現役時代に豊富な経験やノウハウを獲得した高齢者のみなさんには、地域社会に積極的に参画し、一般

就労や起業、趣味活動、健康づくり、ボランティア活動などに携わることが推奨されています。

介護が必要な方の介護度を上げず、元気な方には元気なままで過ごしていただき、むやみに医療や介護に頼らない。そういったことで、なんとか介護保険制度を維持しようという今回の改正には批判の声も根強いのも事実です。しかし、現状の制度が危機的状況にあるのも事実。柔軟な発想で、地域ニーズに対応できる NPO の強みを活かして、地域の高齢者の暮らしを守る取り組みにつなげたいですね。



地域包括ケアシステム概念図 (厚生労働省資料を基に作成)